健康増進計画（健康はだの21）第4期計画

進行管理シート

基本の方向性　Ⅰ　健康を支援するコミュニティの実現

取組分野　1　社会的つながり（ソーシャルネットワーク）

≪　≫については、参考値であり、計画策定時と比較するものではありません。

評価指標	計画策定時	H30参考	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	目標値
健康に気を付けている人の増加（20歳～64歳）	82.2%※1	《参考90.4%》※3	《参考87.8%》※3	―	―	87.1%	―	85%
地域活動参加の割合の増加(65歳以上)	63%※2	《参考58.3%》※3	68.6%	―	―	64.7%	―	80%

データ抽出元　※1：健康状況アンケート調査　※2：日常生活圏域ニーズ調査　※3：市民健康診査及び特定健康診査問診票

重点目標　<人とつながりながら健康づくりへの関心が高まる>

基本施策　○市民がより健康づくりに取り組めるようにするための情報発信及び相談体制の整備　【文言の省略】新型コロナウイルス感染症＝感染症

市の主な取組（事業名） 取り組みの目的	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題及び今後の対策（方向性）	
ア 各種健康教育、健康相談の実施											
a）生活習慣病予防に関する健康講座等	指　標	「未病」に関する講座の参加者数（人）						・公設3か所、民間2か所の未病センターと協働で健康相談会を開催。令和4年度から回数を1回、定員も増やした。 ・市内イオンモールにて健康増進連携企業の協力を得て「未病改善」の普及啓発を広く行った。 健康相談会、健康講座：11回　143人 （R4年度：10回 124人）	B	民間の未病センターが廃止などで運用が難しい状況になったため、公設未病センター3か所に加え、公民館や保健福祉センターなどの市民に身近な場所での出張未病センターとして、事業を継続していく。	健康づくり課
目的：「未病改善」を知る人を増やす 内容：市内3か所に未病センターを設置し、未病センターで健康に関する普及啓発を実施	目標値		240	240	240	240	240				
	実績値		182	47	60	124	143				
b）幼小中PTA向け出張講座（食事・運動・こころ）	指　標	講座アンケートで「健康はだの21」知っている割合（%）						幼稚園・こども園・小中学校に講座の案内を通知し、新型感染症流行が落ち着き始め、徐々に依頼校が増えている。講座では、健康はだの21の情報とともに、若い世代に向けた健康づくりの情報、特定健康診査及びがん検診の受診勧奨を行った。 身体活動：1校（R4年度：1校） こころの健康：5校 総合編（歯科）：1校	A	新規の実施校数を増やすため、年間予定に組み込めるよう、引き続き、前年度中に案内を学校へ送付する。また、若い世代をターゲットとし、家族ぐるみで健康意識が高まるような講座内容を検討し、健康づくりの情報も発信していく。	健康づくり課
目的：若い世代で健康づくりへの関心が高まる人を増やす。 内容：幼稚園・こども園・小・中学校のPTA向けの講座を実施	目標値	50	50	50	50	50	50				
	実績値	38.0	45.7	54.5	54.8	61.0	51.0				
C）高齢者向け出前講座	指　標	出前講座の延参加者数（人）						感染対策を講じながら、活動を継続・再開する団体があり、前年度より講座回数および参加者数は増加した。 運動：88回　1372人 栄養：41回　622人／口腔：42回　678人 認知症予防：18回　248人 その他：66回　812人	B	引き続き、感染対策を講じながら。運動・栄養・口腔、認知症予防等についてフレイル予防の視点を取り入れた講座を重点的に行う。	高齢介護課
目的:介護予防に関心がある高齢者を増やす。 内容:老人クラブや自治会などの活動の場に出向き、健康講座、介護保険制度や健康づくり、認知症予防の講座を行う。	目標値	3,700	3,900	4,100	4,300	4,500	4,500				
	実績値	4,095	4,207	1,880	2,478	3,359	3,732				
イ 若い世代への健康情報の発信	指　標	がん検診の全電子申請の数（件）						若い世代のがん検診の電子申請を増やすため、QRコード付のリーフレットで情報発信をした。 また、健康カレンダーやがん検診受診勧奨はがきにも電子申請のQRコードを載せ、申請数増加を図った。	B	乳幼児健診や幼稚園・保育園の全保護者やPTA対象の講座等でもリーフレットを配布し、新規申込みを対象とした若い世代に向け、電子申請による検診の申し込み方法について、情報発信に努めていく。	健康づくり課
目的：SNS等を活用して、若い世代の人が容易に健康情報を得られる 内容：QRコードや電子申請等の体制整備	目標値	1,000	1,200	1,400	1,600	1,800	1,800				
	実績値	1,435	1,415	2,107	1,618	1,314	1,274				
ウ 各公民館での講座の開催	指　標	公民館自主事業参加者数（人）						高齢者のデジタルデバイド解消のためのスマートフォン体験講座を開催するとともに、公民館まつりをコロナ禍以前と同様の規模で実施することができたため、昨年度と比較して事業数、参加者数が増加した。 市内11公民館の自主事業：408件　36,747人 （R4:346件）	B	公民館自主事業は、講師の担い手、内容、周知方法等の充実が課題となっている。令和6年度は引き続き、高齢者向けスマートフォン体験講座など市民ニーズを意識した講座をはじめ、地域コミュニティの活動拠点としての公民館事業の充実に努め、更なる参加者の増加を見込んでいきたい。	生涯学習課
目的：市民が教養の向上、健康の保持・増進及び社会参加をする。 内容：各公民館での健康づくり事業や講座の開催	目標値	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000				
	実績値	45,545	49,164	6,456	12,533	25,053	36,747				

基本施策　○地域活動団体や大学、自治会組織などの特性を生かした協働事業の開催

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題及び今後の対策（方向性）	
ア 大学との協働事業の実施											
a）東海大学体育学部との協働による運動講座	指　標	運動講座参加者数（人）						チャレンジデー（5月31日）に合わせ、「ウォーキング講座」を開催。効果的かつ日常生活で継続可能なウォーキングについて普及啓発した。	B	R5年度をもってチャレンジデー事業が終了のため、R6年度以降の方向性について、市民の健康づくりの普及啓発に寄与する講座の開催ができるよう検討中。	健康づくり課
目的：若い世代へ学術的根拠をもとにした健康づくりの普及啓発を行う。 内容：東海大学と協力して講座を開催	目標値	30	30	30	30	30	30				
	実績値	35	24	56	―	28	17				
b）高齢者を対象とした東海大学体育学部との連携	指　標	体力測定会参加者数（人）						平成19年から同事業を継続して実施。 令和2年度は感染症拡大防止のため、学生の協力が難しく、中止。令和3年度は、東海大学体育学部教授、リハビリテーション専門職の協力を得て開催したが、感染拡大の影響により、1回の開催。令和4年度以降は中止	D	今後は、高齢者の運動継続の場として、地域の通いの場の拡大といった形に移行していく。	高齢介護課
目的：高齢者が自分の体力に合った運動を継続する。 内容：通いの場（体操実施団体）に出前講座を行う。地域における介護予防の取り組みを強化するため、地域リハビリテーション活動支援事業の打合せを実施。委託事業として体力測定会と結果説明会を開催。	目標値	400	400	400	400	―	―				
	実績値	400	427	0	20	―	―				
イ 健康増進事業計画推進協議会との協働事業の実施	指　標	健康づくりイベントの協働開催数（回）						感染症の影響により、例年実施していたイベントを中止したため、協議会委員と協働での啓発活動は実施できなかったが、健康増進事業計画推進協議会の対面会議にて、各団体の活動状況について情報共有及び計画改定に当たってのグループワーク等を行った。	B	感染症の状況を鑑みながら、秦野市健康増進計画推進協議会と協働し、「健康はだの21」を普及啓発する機会を検討する必要がある。	健康づくり課
目的：地域の団体から推薦された健康増進計画推進協議会（市民代表）が普及啓発を行う。 内容：健康づくりイベントを実施し、活動を支援する （春風ウォーク、たばこ祭、健康フェスティバル）	目標値	3	3	4	4	4	4				
	実績値	3	3	―	―	―	―				
ウ 地域での体操会の開催	指　標	さわやか体操を行う市内体操会の数						R5年度は直営体操会も自主体操会も開催することができていた。 直営体操会：3か所 自主体操会：5か所	B	R5から公衛会委託事業だったしぶさわご近所体操会が自主体操会になったが、運営するさわやかマスターの高齢化により、自主運営が難しい状況。そのため、R6年度から直営体操会へ移行し、体操会が継続できるよう支援をしていく。	健康づくり課
目的：地域で、人とつながりながら健康づくりを継続する「体操会」の参加人数を増やす。 内容：さわやかマスターが中心となり、体操会を定期的に開催	目標値	12	13	14	15	16	16				
	実績値	12	11	10	10	9	8				
エ さわやか体操出張講習会	指　標	さわやか体操出張講座の地域からの依頼（回）						依頼団体が無くなったことにより、依頼が減少。 実施回数：1回、参加人数：30人	D	周知方法などはこれまでとは変わらないが、地域からの依頼が減少している。イベント等での体操披露時に出張講座のPRをする機会を増やしていくなど、見直しが必要。	健康づくり課
目的：地域の活動団体や自主サークルへさわやか体操を広める。 内容：依頼のあった団体へ、体操普及ボランティア「さわやかマスター」と協力して、さわやか体操の出張講座を実施	目標値	10	11	12	13	14	14				
	実績値	11	19	8	6	9	1				

基本施策　〇行政とボランティアとの協働による健康づくりの推進及び見守り体制の構築

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題及び今後の対策（方向性）	
ア 健康推進員の養成・育成及び活動支援	指　標	健康推進員養成講座の受講者数（人）						健康づくりに関するボランティア活動を行う市民活動団体（公衛会）が解散となり、R4から健康推進員の活動及び養成講座の全面的な見直しを図った。昨年同様、個人の健康づくりの実践に立ち返り、その先に身近な家族や地域住民の健康づくりを支援できるよう、受講者同士のつながりをつくる場も意図して養成講座を開講した。延べ18人が受講し、補講実施により全受講生が修了できた。 養成講座受講者6人中、任意登録者6人	B	講座修了者6名が今後の活動を希望し任意登録されたが、個人の健康づくりの実践から再スタートしているため、現任研修を開催してステップアップを図り、活動への基盤をつくるとともに修了生同士の交流や協働を促進していく。同時に養成講座開講により健康推進員の母数を増やし、市民活動団体としての組織化等について検討していく。	健康づくり課
目的：健康づくりが市民から市民に広がることを目指し、地域で、健康に関する知識を普及する人を増やす。 内容：栄養・運動・介護予防などの健康に関する知識を普及するボランティアを養成する講座を開催	目標値	15	15	15	15	15	15				
	実績値	21（未病トレーナー受講7）	8	13（未病トレーナー受講 4）	6（未病トレーナー受講3）	24（未病トレーナー受講3）	6				
イ 食生活改善推進員の養成・育成及び活動支援	指　標	食生活改善推進員養成講座の受講者数（人）						HPの他、タウン紙への掲載など、市民へ周知して実施。4年ぶりに調理実習を含むカリキュラムとするほか、定例会の実施日と合わせて開催するなど、内容の充実を図った。公民館等へのチラシの配架だけでなく、市公式LINEや公立認定こども園の保護者が利用するアプリでの配信により壮年期の受講者が増加した。 入会者8名　入会率53% （R4年度入会率：100%）	A	令和5年度は調理実習を行うことで座学の時間が十分に確保できなかった。令和6年度は7日間のコースで構成し、入会後の活動の中で、すぐに実践できるよう体制を整える。 また、申し込みのハードルを下げるため電子申請の活用を検討。	健康づくり課
目的：地域で食生活改善推進活動を実践するボランティアを増やす。 内容：食に関する知識を普及するボランティアを養成する講座を開催	目標値	15	15	15	15	15	15				
	実績値	9	9	13	4	8	15				
ウ 市民体操普及員（さわやかマスター）の養成及び支援	指　標	さわやかマスターの登録者数（人）						・さわやかマスター養成講座は隔年実施のため、実施なし。 ・さわやかマスターの登録数はR4と変わりなし。 ・現任研修会では、体操考案者の川向先生を迎え、体操に加えてレクリエーションの実際を学びながら、現任さわやかマスターの交流の機会を設け、28名が参加した。	B	・R6年度は養成講座を開催予定。 ・R6年度の現任研修会では、さわやか体操ゆっくりバージョンを実施予定。養成研修及び現任研修において、まだ体操会に所属していないさわやかマスターが体操会に所属するきっかけづくりとする。	健康づくり課
目的：地域でさわやか体操を普及するボランティアを増やす。 内容：「さわやかマスター」養成講座と研修会の開催	目標値	63	70	70	80	80	80				
	実績値	63	70	70	66	53	53				
エ 介護予防普及員の養成講座及び担い手の活動支援	指　標	介護予防普及員の実人数（人）						これまでの各種介護予防ボランティアを令和4年度に「いきいきはだのサポーター（はだサポ）」として統合し、介護予防ボランティアとして養成研修を実施。活動の意向確認を行い、実人数は減となった。令和5年度は現任研修を実施し、介護予防に関する幅広い知識を学び、日頃の活動に活かせるよう支援を行った。 ・いきいきはだのサポーター現任研修 　全13回　延304名	B	各々の活動の中で還元できるよう研修を行い、地域での活動を支援した。また、フレイルに関するイベント等の協力も依頼し、活動の場を広げた。 次年度は定例会を実施し、引き続き地域での活動を支援する。講座やイベントの協力を得ながら、活動の充実を図る。	高齢介護課
目的：地域で介護予防に役立つ活動を広めるボランティアを育成する。 内容：コグニサイズ普及員、いきいき健康サポーター、食のソムリエなど、介護予防などに関わるボランティアの養成及び活動を支援	目標値	―	―	―	―	―	―				
	実績値	102	160	394	147	67	67				
オ ゲートキーパー養成講座	指　標	ゲートキーパー養成累計人数（人）						新型感染症感染拡大以降ハイリスクと言われている女性や若者への対策強化として、PTA向け出張講座や子育て支援を行うファミサポ支援会員向けなどに開催した。 職員向け（教職員含む）：4回180人、市民向け：8回195人	A	相談業務に従事する会計年度任用職員や、高齢者に関わる関係者などの受講を推進することで、ハイリスク者や高齢者の自殺対策を推進する。	健康づくり課
目的：自分自身や身近な人のこころの不調に気づき、専門機関へ繋げられる人を増やす。 内容：ゲートキーパーについて学び、専門機関につなぐことができる人を養成する講座を開催	目標値	1,000	1,200	1,300	1,400	1,500	1,500				
	実績値	1,000	1,319	1,353	1,469	1,714	2,089				
カ 認知症サポーター養成講座	指　標	認知症サポーター養成累計人数（人）						関係機関・団体と連携し、高齢者と接する機会の多い企業や団体、学校等での開催を積極的に働きかけたため、受講者数が増えた。 認知症サポーター養成：実926人 ステップアップ講座：11回　延194人	B	新規団体への実施が課題である。若い世等、地域高齢者支援センター、秦野市認知症キャラバン・メイト連絡協議会等地域の団体と協力をしながら、新しい団体へのアプローチを図り、受講者数増を目標とする。	高齢介護課
目的：認知症高齢者にやさしい地域をつくる。 内容：認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者として何ができるのか学ぶ講座を開催。より理解を深め見守る立場から支える立場を目指して、ステップアップ講座を開催。	目標値	10,000	12,100	14,300	16,000	18,000	18,000				
	実績値	11,103	13,250	14,026	14,533	15,097	16,023				
キ 地域の介護予防活動に対する支援事業	指　標	地域介護予防活動の補助交付数（団体）						・計68団体が補助を受け活動。 ・住民ボランティア団体、シルバー人材センター等に補助金を交付し、訪問型サービスB、D及び通所型サービスBを実施。 　訪問型サービスB（住民主体） 　2団体　352件利用 　訪問型サービスD（移動支援） 　3団体　25,933件利用 　通所型サービスB （住民主体） 　8団体　5,624件利用	B	地域介護予防活動支援補助金について周知をすることで、地域で介護予防につながる活動団体を増やし、さらに身近な地域の通いの場の充実を図る。	高齢介護課
目的：地域で身近な通いの場の充実を図る。 内容：地域住民が主体となり、高齢者の居場所づくり、生きがいづくりとなるような介護予防活動を行う団体に対する支援	目標値	88	94	102	110	117	117				
	実績値	43	53	60	67	69	68				
ク 認知症カフェへの支援	指　標	認知症カフェ数（箇所）						引き続き感染症の影響を受け、活動を休止する認知症カフェがあるが、継続中の認知症カフェを支援し、認知症がある方とその家族の居場所づくりとに介護者の心理的負担の軽減に努めた。	B	認知症カフェの新規設立や再開、継続支援をするとともに、認知症の方が利用しやすい利用の仕方について検討する。	高齢介護課
目的：認知症の人の居場所づくりや、心理的負担の軽減等を図る。 内容：地域住民が運営する誰もが集える場「認知症カフェ」に対する支援	目標値	8	9	10	25	27	27				
	実績値	7	23	23	23	20	20				
ケ 元気高齢者の就労支援、活躍の場の拡大	指　標	「認定ヘルパー養成研修」等開催数（回）						介護人材・送迎員等を募集している事業者への情報提供を行い、研修修了者の就労支援を行った。 また、介護分野への多様な人材の参入を促進するため、介護に関する入門的研修や生活援助者従事者研修を開催した。 ・認定ヘルパー研修（2日間×1回） 　修了者28人 ・認定ドライバー養成研修（3日間×2回） 　修了者44人 ・介護に関する入門的研修（21時間×1回） 　修了者12人 ・生活援助者従事者研修（59時間×1回） 　修了者9人	A	介護人材や送迎員を募集している事業者への情報提供を引き続き行い、高年齢者を含めて幅広い人材が地域で活躍できるよう支援する。 高年齢者の地域社会における活躍や、就労支援を目的とした「フルライフはだの」と連携を図り、研修修了者の就労や地域活動の支援につなげる。	高齢介護課
目的：高齢者が地域で活躍し、就労できる 内容：介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービスの担い手として「認定ヘルパー養成研修」「認定ドライバー研修」の実施	目標値	5	5	5	5	5	5				
	実績値	5	5	5	5	5	5				
コ 市民と行政が協働して行う事業の推進（はだのさわやか体操で介護予防）	指　標	さわやか体操　延参加者数（人）						・通いの場等で、さわやか体操を通じたフレイル予防を周知し、理学療法士や大学教授と連携し、定期的なフォローアップを行うことで、会の活動が継続できるよう支援した。。 ・感染対策を講じた上で、活動を継続・再開する団体があり、、また、新規団体も立ち上がっている。 ・「はだのさわやか体操」で介護予防を実践する団体：新規2団体 ・継続団体（R5年度末）：30団体　実378人 （令和3年度より目標値を第8期秦野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に合わせ、延参加者より実人数に変更したため目標値も変更した。）	B	歩いて行ける場所に通いの場があることが介護予防の一助として重要であるため、ひきつづき、各地域での住民主体による活動把握を行う。	高齢介護課
目的：高齢者の身体づくりを支援する。自主グループを増やし、地域の見守りや高齢者の閉じこもり予防につなげる。 内容：病院、NPO法人、東海大学と協働して、徒歩で通える範囲内にある会場を拠点に、オリジナルDVD（はだのさわやか体操で介護予防）を見ながら自主的に活動するグループを市内全域に増やし、支援する。	目標値	600	1,200	1,800	430（実）	500（実）	500（実）				
	実績値	4,490	18,817	6,108	9500（実）338	336（実）	378（実）				

健康増進計画（健康はだの21）第4期計画

基本の方向性　Ⅱ　健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり（疾病予防と健康増進）

取組　分野　　1　栄養・食生活

※市民健康診査問診票の変更による

評価指標		計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	目標値
朝食を週４日以上食べている人の増加（朝食欠食率の減少）（40歳～59歳）		82.4%	83.0%	81.8%	81.6%	79.0%	77.8%	79.5%	85%
主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加		51.6%	51.3%	51.8%	—	—	—	—	55%
野菜を毎食食べる人の増加		38.5%	55.4%	54.9%	—	—	—	—	45%
適正体重を維持する人の増加（BMI18.5～25未満の者の増加）（40～74歳）	男性	69.4%	67.4%	67.1%	65.6%	66.3%	66.3%	66.4%	71%
	女性	69.9%	69.1%	69.0%	67.9%	67.9%	67.2%	68.3%	72%

重点目標　　＜健康な食生活を送る人を増やす＞

基本施策　○　「はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」との連携による食育の推進

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題及び今後の対策（方向性）	
ア　食生活改善推進員の養成・人材育成（再掲）	指　標	アンケートで「食改として活動する」割合（%）						養成講座では、4年ぶりに調理実習を組み込み6日間コースで実施。受講者15名中8名が入会し、例年と比較すると入会率は減少したが、講座の周知方法を工夫したことで、受講者、入会者ともに青壮年期の方の割合が増加した。	C	目標に対する実績は少なく、実際の入会率と差がある。入会後に地域で活動が推進されるような環境を整えていく必要がある。受講後に食改として活動するに当たり、スムーズに活動できるよう、座学の時間を十分にとる。	健康づくり課
目的：地域で食生活を見直し改善する人を増やす。 内容：食に関する知識を学び、普及するボランティアを養成する講座の開催	目標値	80	80	80	80	80	80				
	実績値	67.0	88.9	69.2	75	100	14.3				
イ　食育推進事業の実施											
a）幼稚園、こども園等における食育	指　標	食育キャラクターを活用した食育の実施回数（回）						園児や保護者に対して実施することができ、「早寝、早起き、朝ごはん」に興味や関心を高めることにつながった。 参加者数：園児684名、保護者103名	A	実践意欲を高め楽しく食育を進められるよう、引き続き各園と連携し、普及啓発を図っていく。	こども家庭支援課
目的：幼稚園、こども園等の園児とその保護者を対象に早寝、早起き、朝ごはんの大切さを伝える。 内容：食育キャラクターを活用した食育の普及啓発	目標値	14	27	27	27	27	27				
	実績値	24	21	0	12	21	23				
b）食育講演会及び講座	指　標	アンケートで「食への関心が高まった」割合（%）						・食育講演会は「こどもの脳と体を育てる食事」をテーマに実施した。 参加者76名 ・はだの食育通信に市の食育の取り組み等を掲載し、市内幼稚園、こども園、保育所、小中学校等へ配布して普及啓発を行った。 発行回数2回、発行数各2000枚	A	食への関心を高め、食育の実践を促すためには、継続的な働きかけが必要である。対象者に合わせた内容や開催方法を検討しながら状況に応じて実施を検討する。	こども家庭支援課
目的：子どもの生活習慣や食生活等、食への関心を高める。 内容：講演会等の開催	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	99.1	－	－	－	88.2	96				
ウ　親子食育推進事業の実施											
a）おめでた家族教室における食の普及啓発	指　標	自分の体にあった妊娠中の体重増加量を知っていた割合（%）						妊産婦の食生活指針の周知を図り、妊娠期からの食事の大切さについて普及啓発した。教室参加者アンケートでは、自分の体にあった体重増加量を知っていた人は前年度よりも減少した。 実施回数　8回　参加者数　44人	A	妊娠届出時の面接を通じて、食事バランスについて周知するとともに、おめでた家族教室や、ホームページ、パンフレット配布等により、適正な体重増加量や栄養バランスのよい食事についての普及啓発に努める。	こども家庭支援課
目的：母体の健康管理や低出生体重児の予防 内容：妊産婦とその家族に対して、食事の大切さを伝え、妊産婦のための食生活指針に基づく普及啓発を実施	目標値	70	70	70	75	78	78				
	実績値	57.1	62.5	75.0	76.7	65.2	79.5				
b）離乳食セミナー、幼児食と歯のセミナー	指　標	離乳食セミナーのアンケートで「食育を実践できそう」の割合（%）						市公式YouTubeを活用した離乳食動画の配信を行い、家庭における食育を実践する意欲を高めるよう努めた。令和5年度に、離乳食セミナー（ステップアップ編）を開始し、成長に合わせた進め方を伝え、子どもの食べる意欲につながる支援を実施した。 実施回数　28回　延573人 動画配信回数：1回　総再生回数：5,079回	A	子どもの食と育児不安の解消を図り、家庭で楽しく食育ができるよう支援していく。親の食生活が子どもの食生活に大きく影響するため、家庭全体での食生活改善を促すことができるよう、共食を通じた食生活支援に努める。	こども家庭支援課
目的：食への関心を高め、子どもの食べる意欲を育む。 内容：乳幼児を対象とした教室での「家庭における食育」の普及啓発	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	99.6	99.0	99.0	97.8	97.4	100				
エ　乳幼児健康診査	指　標	3歳6か月健康診査時の朝食欠食の割合（%）						4か月、1歳6か月、2歳、3歳6か月児健診において個別相談を実施。また、令和5年度から4か月児健康診査において、離乳食の集団指導を再開した。健診の集団指導からセミナーにつなげ、食の楽しさの普及に努めた。	A	生活リズムの見直しと朝食を食べることを勧めていく。体を動かすこと、他者との食事の機会を増やすことをベースに、楽しい食事の時間を作ることを普及していく。	こども家庭支援課
目的：乳幼児期の発達の基礎となる「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくり。 内容：乳幼児健康診査を通じて食育の推進	目標値	0	0	0	0	0	0				
	実績値	2.8	3.6	2.4	3.6	3.1	3.2				

○　ライフステージにあわせた栄養バランスのとれた食事の実現と適正体重を維持するための取組

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題及び今後の対策（方向性）	
ア　幼少中PTA向け健康講座～食事編～	指　標	アンケートで「実践しようと思った」の割合（%）						依頼なし。働き世代や子育て世代への取り組みとして、市公式YouTubeによる料理動画の配信やHPへ掲載している健康の豆知識と簡単レシピの配信等、若い世代への情報発信を行った。 実施校数：0校 YouTube掲載回数：6回 視聴回数2,354回（R5配信分R6.3.15時点）	B	働き世代や子育て世代に、生活習慣病予防に関する知識の習得と望ましい食生活の確立に向けたバランスの良い食事を伝える講座の提案に努める。	健康づくり課
目的：若い世代で、生活習慣病予防に関する知識の習得と望ましい食生活を送る人を増やす。 内容：幼稚園・こども園・小・中学校のPTAに向けの講座を開催	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	98.0	80.0	—	—	75.9	—				
イ　生活習慣病予防対策事業											
a）メタボリックシンドローム予防・改善のための料理講座	指　標	アンケートで「取り組む意欲がある」割合（%）						・特定健康診査受診者を対象に、結果送付時に周知して実施。6回の開催予定のうち、人員不足により1回を見送り、5回実施した。 ・基礎だけでなく、応用編の内容も取り入れ、料理動画を活用し、講座内で調理の工夫を伝えることが出来た。 ・アンケート「取り組む意欲がある」の未記入者1名を除いた39人の割合は100%だった。 実施回数：5回　延40人 （R4年度：4回41人）	A	令和6年度も調理実習を見送り、引き続き講義形式の「食活のすすめ」を実施予定（メタボ編4回予定）。 引き続き、血管年齢測定も同時に実施していく。 実践に繋げるため、デモンストレーション及び試食を実施予定。	国保年金課 健康づくり課
目的：食事の適量を知り、望ましい食行動を学ぶ。 内容：メタボリックシンドローム予防・改善のための料理講座を開催（食生活や食行動を見直し、家族を含めた健康の維持・改善につながる内容）「食活のすすめ（メタボ編）」	目標値	80	85	90	95	100	100				
	実績値	89.0	87.3	90.9	95.5	92.7	97.5				
b）病態別料理講座の開催	指　標	アンケートで「バランス良く食べる意識が高まった」割合（%）						・一般を対象に、広報・HPで周知して実施。昨年同様、感染対策のため調理実習を中止し、講話中心に、計画どおりに実施。糖尿病、高血圧、脂質異常とテーマを明確に周知したことで、自身に合ったテーマに参加することができ、実践への取組意欲を高めることができた。 調理実習の代わりになるものとして、料理動画の放映や配布などで情報提供を行った。そのほか、家庭においてすぐに実践できるよう、テーマ別献立のデモンストレーション及び試食を実施。 実施回数　6回　参加人数（延）59人 （R4年度：6回65人）	B	引き続き、講義形式の「食活のすすめ」を実施予定（病態別 年6回予定）。様々な視点から生活習慣病を捉えてもらうため、新たなテーマや測定を取り入れる。 さらに深く知りたい人は個別相談を受けることや、他の講座との連携も検討しながら実施していく。	国保年金課 健康づくり課
目的：生活習慣病の重症化を予防するための料理のポイントがわかる。 内容：糖尿病編、高血圧症編、脂質異常編の料理講座の開催「食活のすすめ」（病態別編）	目標値	95	98	98	100	100	100				
	実績値	96.0	94.8	97.3	93.3	90.8	82.0				

ウ 地消地産推進事業	指 標	アンケートで「参考になった」の割合(%)						4年ぶりに「はだの野菜ヘルシー料理講座」を再開。野菜生産者の講話を取り入れ地場産野菜や農業への理解を深めるとともに、生活習慣病予防に向けた栄養バランスの良い食事の調理実習を実施。 実施回数:2回(保健福祉センター、本町公) 参加者数計:14名	B	定員に対する申込者数が少なく、周知方法の工夫が必要。電子申請等を取り入れながら幅広い世代の参加者の獲得に向け検討していきたい。 実施予定回数:5回	健康づくり課
目的:生活習慣病予防のための食事を学ぶ。 内容:安心安全な地場産野菜を使い、主食・主菜・副菜の揃った健康的な食事の基本を学ぶ料理講座の開催	目標値	90	95	95	98	98	98				
	実績値	95.0	93.3	―	―	―	78				
エ 一般介護予防事業(栄養)の実施											
a) 介護予防普及啓発事業	指 標	栄養に関する講座の延参加者数(人)						・公民館等で行う栄養講座 フレイル予防で健康長寿 2会場 延32人 出前講座 11回 延244人 ・ミニデイサービスでの講座 9回 延123人 ・さわやか体操実施団体 23回 延263人 ・自主事業 7回 延115人 ・後期高齢者健診低栄養フォロー支援(ハイリスクアプローチ) 延53人 ・日常生活支援総合事業「おいしく食べよう歯っぴー訪問(訪問C)」 栄養訪問件数:延28人	B	通いの場や各公民館で講座を行うなど、地域に出向いて講座を実施し、低栄養予防の普及啓発を図った。 高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施事業や総合事業として、要介護状態への移行を予防するため、個別支援を行った。 より多くの高齢者が個々の状況にあった適切な栄養習慣が身に付くよう、地域高齢者支援センターと連携し、支援の充実を図る。	高齢介護課
目的:高齢者の低栄養予防を重点に高齢期に適した食事について広く普及啓発していく。 内容:栄養に関する講座・相談の実施	目標値	800	850	900	950	1000	1000				
	実績値	829	965	275 ⇒490	455	701	858				
b) 管理栄養士によるボランティア支援	指 標	管理栄養士のボランティア支援の延参加者数(人)						新型感染症が5類へ移行したことに伴い、食事の提供を再開する動きがみられた。ボランティアが安心して食提供に取り組めるよう衛生講習会を実施し、支援を行った。 ・ミニデイサービス 10回 延89人 ・いきがい型デイサービス 4回 延31人 ・サロン 1回 延5人	B	食のボランティアが感染症予防に注意しながら、安心して活動できるよう引き続き講習会等を実施し、支援を行う。	高齢介護課
目的:食の提供をしているボランティアが衛生管理に注意し、継続して活動できるよう支援する。 内容:食事提供ボランティア・食生活改善推進団体への活動支援、食のレクレーション・食のサポート講座	目標値	―	―	―	―	―	―				
	実績値	305	266	264	56	114	125				

○ 地消地産を推進する取組

市の主な取組(事業名) 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等(R5)	担当課評価	課題及び今後の対策(方向性)	
ア 地消地産推進事業(再掲)	指 標	アンケートで「野菜情報が参考になった」割合(%)						4年ぶりに「はだの野菜ヘルシー料理講座」を再開。野菜生産者の講話を取り入れ地場産野菜や農業への理解を深めるとともに、生活習慣病予防に向けた栄養バランスの良い食事の調理実習を実施。 実施回数:2回(保健福祉センター、本町公) 参加者数計:14名	B	定員に対する申込者数が少なく、周知方法の工夫が必要。電子申請等を取り入れながら幅広い世代の参加者の獲得に向け検討していきたい。 実施予定回数:5回	健康づくり課
目的:本市の農業や農産物への理解を深める。 内容:地場産野菜を使い、主食・主菜・副菜の揃った健康的な食事の基本を学ぶ料理講座の開催	目標値	85	90	90	95	95	95				
	実績値	87.0	90.3	―	―	―	71				
イ 親子地場産野菜教室への支援	指 標	親子地場産野菜教室開催数(回)						20組の親子を対象に年15回実施。計画どおり事業は実施され、地産地消を推進した。	A	事業を継続実施し、地産地消を推進していく。	農業振興課
目的:親子で地域の農や食の大切さを学ぶ。 内容:食生活改善推進団体が年間を通じ、親子で野菜の栽培・収穫・調理を体験する教室の開催	目標値	14	14	14	14	14	14				
	実績値	14 (20組)	14 (20組)	15 (8組)	15 (20組)	16 (20組)	15 (20組)				
ウ はだの産農産物応援サポーターの拡充	指 標	はだの産農産物応援サポーター店の登録数(店)						地産地消を応援し、PR等に協力するお店を対象に「はだの産農産物応援サポーター店」として登録していただくことを目的に広報等でPRしたが、店舗数の増加はなく、1店舗減ったため、実績値は減少となった。	A	今後も、はだの産農産物応援サポーター店舗数の維持に加え、広報等でPRすることを継続し、店舗数の増加を目指すことで、地産池消を推進していく。	農業振興課
目的:地産地消を応援する店舗を増やす。 内容:協力する店舗を対象に「はだの産農産物応援サポーター店」登録制度を実施	目標値	36	36	38	38	52	52				
	実績値	42	47	48	50	50	49				

健康増進計画（健康はだの21）第4期計画

基本の方向性　Ⅱ　健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり（疾病予防と健康増進）

取組分野　２　身体活動・運動

評価指標			計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	目標値
日常生活において1時間以上の歩行と同等の活動を行っている人の増加	40～64歳	男性	48.8%	47.7%	48.1%	51.0%	47.8%	48.2%	47.8%	54%
		女性	51.6%	49.4%	51.8%	49.0%	44.4%	51.3%	47.7%	56%
	65～74歳	男性	57.5%	55.7%	56.1%	54.3%	53.2%	50.9%	53.1%	62%
		女性	53.1%	54.6%	54.3%	53.8%	55.6%	55.3%	55.5%	58%
運動習慣のある人（1回30分以上、週2回以上の運動を1年以上継続している人）の割合の増加	40～64歳	男性	35.4%	35.5%	37.7%	33.0%	35.2%	34.2%	35.4%	40%
		女性	33.5%	31.2%	31.5%	33.6%	30.8%	31.5%	31.4%	38%
	65～74歳	男性	56.5%	52.6%	52.5%	48.1%	48.2%	49.3%	48.2%	60%
		女性	50.1%	49.1%	47.9%	50.4%	50.0%	47.1%	50.0%	55%

重点目標　＜身体活動・運動を行う人を増やす＞

基本施策　○　身体活動・運動に関する正しい知識の普及とライフステージに応じた効果的な身体活動の取り組みの推進

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題及び今後の対策（方向性）	
ア　幼小中PTA向け健康講座～身体活動編～	指　標	アンケートで「実践する」割合(%)						幼稚園・こども園及び小中学校PTAを対象に身体活動に関する出張講座を実施。感染症の影響で、前年度同様に実施校数が少ないが、アンケートでは「実践できる内容があった」と約8割が回答し、身体活動を増やす意識の向上につなげることができた。 実施校：1校／参加者数：19人(R4:1校)	B	若い世代へ普及啓発する機会と捉え、前年度中に周知し、多くの参加があるようPTA側の担当者と連携し、健康の情報発信もあわせて実施していくとともに、家族ぐるみで健康意識が高まるような内容を盛り込んでいく。	健康づくり課
目的：若い世代で健康づくりへの関心が高まる人を増やす。 内容：幼稚園・こども園・小・中学校のPTAに向けの運動講座	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	94.9	90.7	89.4	71.2	100	89				
イ　健康教育事業（東海大学との身体活動講座）（再掲）	指　標	アンケートで「運動を実践・継続できる」割合(%)						チャレンジデー（5月31日）に合わせ、「ウォーキング講座」を開催。効果的かつ日常生活で継続可能なウォーキングについて普及啓発した。	B	R5年度をもってチャレンジデー事業が終了のため、R6年度以降の方向性について、市民の健康づくりの普及啓発に寄与する講座の開催ができるよう検討中。	健康づくり課
目的：ロコモ予防のため運動を継続できる人を増やす。 内容：東海大学体育学部の学生が中心となって運動講座の開催	目標値	90	100	100	100	100	100				
	実績値	84.8	0	82.0	－	86.0	94				
ウ　生活習慣病予防事業の実施	指　標	アンケートで「実践する、できそう」の割合(%)						特定健康診査の結果通知時に計画的に講座日程を周知したことで、健診受診者が健康に関心が高まっている時期に参加を促すことができた。 ①脱メタボ（からだづくり応援）：参加者数（延べ）45人中、「実践する」と回答した人数40人（89.0%） ②食活のすすめメタボ編：参加者数（延べ）40人中、「実践する」と回答した人数 39人（97.5%） ③健康サポート講座：参加者数（延べ）130人中、「実践する」と回答した人数113人（86.9%） ④糖尿病予防講座：参加人数39人中、31人（　79.4%） 講座の全参加者数（延べ）：254人 「実践する」と回答した人数：223人（87.7%） （R4年度：延べ参加者総数325人中、「実践する」と回答した人数299人で92.0%）	B	今後も引き続き、健診結果を基に、自分の健康状態を確認し、メタボリックシンドロームの改善・予防を目的とした講座を開催していく。	国保年金課 健康づくり課
目的：自らの生活習慣を振り返り、改善する意欲を高める。 内容：メタボリックシンドロームの改善・予防を図る講座を開催 （脱メタボ・いきいき食活メタボ・健康サポート講座・糖尿病予防講座）	目標値	80	82	85	88	90	90				
	実績値	75.3	89.9	84.6	92.5	92.0	87.7				
エ　重点健康相談事業（骨密度測定相談会）	指　標	骨密度測定会の参加者数(人)						乳がん検診時、未病健康相談会等で骨密度測定を実施した。同時に、骨密度を増やす生活習慣改善に向けて相談を行った。 乳がん検診：7回217人、講座：14回331人 （※R5年度はシルバー人材センターからの依頼なし。参考：R4 1回39人）	A	乳がん検診時での啓発については、初めて骨密度を受ける人もいるが、40%が過去の乳がん検診時に市の骨密度測定を受けたことがあり、骨粗鬆症予防啓発の機会になっていることが窺える。次年度は、若年層に早期から啓発する機会を検討していく。	健康づくり課
目的：骨密度に関心をもち,,自らの骨密度を知る人が増える。 内容：骨粗鬆症予防を目的とした骨密度測定の実施	目標値	400	400	400	400	400	400				
	実績値	428	398	299	462	586	548				
オ　一般介護予防事業の実施（運動）	指　標	運動に関する講座の延参加者数（人）						○公民館等で以下の運動講座を実施 ・「姿勢改善で痛み予防」 　2日間×7回　延150人 ・「いきいき運動コース」 　22回（2会場）　延490人 ・フレイル予防で健康長寿 　4回（2会場）　延66人 ○ミニデイサービスで運動講座を実施 　18回　延247人参加 ○地域高齢者支援センター主催の介護予防教室　49回　延852人参加	B	感染症対策を講じながら、各種団体の協力を得て、事業を実施した。 今後も自分に合った無理のない効果的な運動を取り入れることができるよう、運動講座を提供する。また、住み慣れた地域で体を動かせる通いの場の拡充を目指す。	高齢介護課
目的：身体を動かし、心身機能の低下を予防する。 内容：運動に関する講座、相談の実施	目標値	2,650	2,800	2,950	3,100	3,250	3,250				
	実績値	4,388	4,241	1,180	1,303	1,947	2,154				
カ　運動推進事業（さわやか体操出張講習会）の実施（再掲）	指　標	さわやか体操出張講座の依頼（団体数）						依頼団体が無くなったことにより、依頼が減少。 実施回数：1回、参加人数：30人	D	周知方法などはこれまでとは変わらないが、地域からの依頼が減少している。イベント等での体操披露時に出張講座のPRをする機会を増やしていくなど、見直しが必要。	健康づくり課
目的：地域の活動団体や自主サークルへさわやか体操を広める。 内容：依頼のあった団体へ、さわやか体操の出張講座を実施	目標値	10	11	12	13	14	14				
	実績値	6	9	4	4	9	1				
キ　3033運動の推進	指　標	イベントで3033運動の啓発周知数（回）						イベント等での啓発周知はすることが出来なかったが、各スポーツ施設への階段や壁に常時ポスター掲示することで普及啓発を図った。	C	令和6年度はスポーツ推進委員の会議やイベント等で3033運動の啓発周知をしていく。	スポーツ推進課
目的：1日30分、週3回、3か月継続してスポーツを実施。 内容：イベント等で普及啓発を実施	目標値	1	―	―	―	―	―				
	実績値	2	2	0	0	0	0				
ク　スポーツ教室（市スポーツ協会による実施）	指　標	新規プログラム教室の開催数（回）						毎月第1土曜後に秦野市スポーツ協会と協働で「ふれあいスポーツデー」を実施。 スポーツに親しむ人口のすそのを広げ、日常生活に取り組んでいくよう導いている。	A	「ライフステージ・志向に応じて『はつらつと・だれもが・のびのびと』スポーツに親しみ・楽しむ秦野（まち）」を継承し、子どもから成人、高齢者、障害者まで、あらゆる人々が、それぞれの生活環境に合わせて、生き生きとゆったりとした気持ちでスポーツに親しみ・楽しむことができる環境づくりに取り組む。	スポーツ推進課
目的：子供から高齢者、障害者などがスポーツに親しむ。 内容：気軽に参加できる各種スポーツ教室の実施	目標値	1	1	1	1	1	1				
	実績値	5	2	2	2	3	11				
ケ　スポーツ・レクリエーションイベントの充実	指　標	チャレンジデーの参加率（%）						「はだのチャレンジデー2023」は対戦形式で実施し、参加率アップ賞を受賞するなど、日常的なスポーツの習慣化や健康増進に向けた運動の普及を行った。 ・チャレンジデー参加者91,093名 「令和5年度体力・運動能力調査」については、市民の体力、運動能力の現状を明らかにし、体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得るため、スポーツ庁が定めた20歳から64歳及び65歳から79歳までの市民を対象に開催。 ・男性20歳～64歳　8人、65歳～79歳　10人、女性20歳～64歳　22人、65歳～79歳13人、合計参加者53人 「表丹沢をフィールドとしたスポーツの聖地」としての知名度向上とスポーツクライミングの普及振興・裾野拡大を図るため、高校生以下を対象とした「2023スポーツクライミングはだの丹沢カップ」を開催した。 ・2023スポーツクライミングはだの丹沢カップ参加者400名 はだの丹沢水無川マラソン大会については、4年ぶりに5km及びまめっこの部を実施。全国から多くの選手が集まり、本市の魅力に触れていただいた。 ・水無川マラソン参加者1,612名	A	「チャレンジデー」は、令和5年度で終了。 「令和5年度体力・運動能力調査」については、国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、スポーツ庁が体育・スポーツの指導と行政上の基礎資料を得るため引き続き実施していく。 「スポーツクライミングはだの丹沢カップ」については、継続的に実施し、国内有数、県内唯一のクライミング拠点として、施設の魅力向上に努め、スポーツクライミングの普及・振興を図る。 「はだの丹沢水無川マラソン」については、市民の健康・体力づくりを振興するとともに、明るく健全な市民生活を推進し、あわせて全国から多くのランナーを迎え、秦野市の知名度向上とイメージアップを図る。	スポーツ推進課
目的：市民のスポーツに対する参加意欲を高める。 内容：参加型イベント（チャレンジデーなど）や体力テスト、ニュースポーツ体験会などの開催	目標値	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0				
	実績値	46.4	53.2	―	11.5	31.5	57.1				

基本施策　〇身体活動・運動に取り組みやすい環境づくり

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題及び今後の対策（方向性）	
ア さわやかマスター（体操普及員）の養成及び育成（再掲）	指　標	さわやかマスターの活動回数（回）						現在のマスター登録者数53名。 ・現任研修会では、東海大学名誉教授川向妙子氏からレクリエーションのコツを行い、28名が参加した。 ・体操会のやイベント再開に伴い、活動回数は増加している。	B	・R6年度は養成講座実施予定。 ・R6年度の現任研修会では、理学療法士の中曽根氏を迎え、さわやか体操のゆっくりバージョンをおさらいしながら、現任さわやかマスターの交流の機会を設ける。 ・交流を行う中で、まだ体操会に所属していないR6年度新規さわやかマスターが体操会に所属するきっかけづくりとしたい。	健康づくり課
目的：さわやかマスターが地域で広く体操の普及を行う。 内容：さわやかマスターを養成・育成し、地域で活動できるよう支援	目標値	75	77	79	81	83	83				
	実績値	75	82	0	10	42	50				
イ 地域での体操会の開催（再掲）	指　標	市内体操会の延参加者数（人）						1か所体操会の解散があり、前年度よりも減少はしたが、直営体操会は継続して実施できている。	B	公園等の身近な場所で、自主的に行う「体操会」が継続して行えるよう、活動を支援する。また、体操会運営の中心となっているさわやかマスターが意欲的に活動できるように支援を行っていく。	健康づくり課
目的：地域で、「体操会」を定期的に実施し、運動習慣のある人を増やす。 内容：さわやかマスターが中心となり、体操会を定期的に開催	目標値	8,000	8,100	8,200	8,300	8,400	8,400				
	実績値	7,125	5,181	2,654	3,154	3,563	3,442				
ウ 普及啓発事業の実施	指　標	ウオーキングマップ等の配布数（枚）						ウォーキングマップ、さわやか体操の解説図、市内体操会案内等について、市内イオンモールで開催した「未病かながわ再発見」や、ねんりんピックのイベントで各種リーフレットを配布し、コロナ禍でもできる身近な健康づくりとして情報提供した。ウォーキングマップには、県のアプリ「マイME-BYOカルテ」のQRコードを掲載し、歩数を計測して楽しみながらウォーキングが継続できるよう周知した。	B	市民が運動に取り組めるよう、媒体の工夫、各イベントや講座実施の機会をとらえて積極的に情報提供していく。	健康づくり課
目標：市民が運動に取り組みやすい環境づくり 内容：ウォーキングマップ、市内体操会案内、さわやか体操のCD・DVD等を配布	目標値	550	600	650	700	750	750				
	実績値	570	980	550	274	360	348				
エ 健康増進計画事業推進協議会との協働事業（再掲）	指　標	春風ウォークの参加者数（人）						健康づくりに関心が薄い人やあらゆる世代の人が「桜」を通じて、健康づくりを始めるきっかけになるなるよう、地域資源を活用した事業として、例年、実施している。 今年度は、連携協定を結んでいる住友生命と連携して、住友生命の健康アプリを使って、ウォーキングを呼びかけ、期間中の目標達成した者には特典を付与した。 Vitalityはだの春風ウォーク参加者数：65人	C	「桜」をきっかけにしたウォーキングイベントは、あらゆる世代に健康情報を普及啓発できる機会でもあり、今後も、安全に多くの人が参加できる方法等を検討していく。	健康づくり課
目的：健康増進計画推進協議会と連携による健康づくりの普及啓発 内容：健康増進計画「健康はだの21」の推進協議会と協力して、健康づくりイベントを実施	目標値	400	400	400	400	400	400				
	実績値	276	471	―	―	190	65				
オ 森林セラピー事業	指　標	森林セラピーの開催数（回）						市と里地里山保全再生活動団体等と共催で、一般向けに森林セラピーイベントを市内の里山において実施した。 また、森林セラピーガイドの能力向上を目的に意見交換会（1回）や研修会（8回）、先進地視察（1回）を実施した。	A	里山団体や施設管理者等による協議会と連携して、イベントの開催や人材育成を図る。また、市外向けに発信強化も検討していく。	森林ふれあい課
目的：山の魅力を感じながら身体活動を普及啓発する 内容：市と里山団体共催で一般市民などを対象に森林セラピー体験事業を市内の里山において実施	目標値	7	7	10	11	12	12				
	実績値	5	7	7	22	24	36				

健康増進計画（健康はだの21）第4期計画

基本の方向性　Ⅱ　健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり（疾病予防と健康増進）

取組分野　３　こころの健康・休養

評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	目標値
ゲートキーパー（自分と人の状態に気付ける人）の増加	633人	1,000人	1,125人	1,451人	1,567人	1,714人	2,089人	1,000人
ストレスに対処できる人の増加	50.0%	50.5%	―	66.3%	61.0%	66.0%	65.0%	55%
睡眠で休養が十分にとれていると感じる人の増加	77%	75.9%	76.6%	77.5%	77.6%	64.2%	76.6%	80%

重点目標　〈自分や他人の悩みや心の状態に気付ける人を増やす〉　〈十分な睡眠をとり、ストレスと上手に付き合える人を増やす〉

基本施策　〇相談窓口の周知や身近に相談できる人を増やすなどのこころの健康づくりをサポートする体制の充実

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　こころの健康対策事業											
a）市内公立中学校へのこころのリーフレットの配布	指　標	掲載相談窓口の数（箇所）						若年層対策の強化として、相談窓口一覧リーフレットでは、SNSを活用した相談窓口についてQRコードを付けて掲載したしたり、市公式SNSでは若者向けサイトや働く人向けサイトを周知した。 市内中学校（2回）及び高校（1回）へ、「こころの体温計」（QRコード付）及び子ども向け相談窓口を掲載した啓発カードを配付した。 配付数　9月：中学校及び高校6,490人分 3月：中学校3,942人分	A	相談窓口一覧リーフレットを紙面で広く配布してきたが、SNSを活用する年齢層も広がっており、周知方法に工夫が必要である。特に、市内小学校では生徒個人にタブレットの配布があり、画面上で啓発できる方法を検討するとともに、保護者世代にはメール配信等のツールで情報共有できないか検討する。	健康づくり課
目的：思春期の世代に相談窓口を周知する。 内容：こころの体温計と悩みに対する相談機関を掲載したリーフレット等の配布（市内公立中学校への配布）	目標値	60	62	64	66	68	68				
	実績値	61	67	71	76	75	79				
b）職域などでの相談窓口の情報提供	指　標	職域で配布できた事業者数（箇所）						・働き世代で悩みをもつ人が適切な相談先につながるよう、職域向けの健康講座や情報交換会で、相談先窓口の掲載リーフレットを配布したり、市の相談窓口の周知を行った。また、市公式SNSで、働く人向けサイトを周知したり、市内駅構内3か所に啓発リーフレットの配架を実施した。	A	全国的に壮年期男性の自殺者数が多いことから、職域と連携を図り、相談窓口の周知を図る。事業所内でメンタルヘルスについて取組が推進されるように、商工会や工場協会と連携できないか方策を検討する。	健康づくり課
目的：青年期・壮年期の世代に相談窓口を周知する。 内容：職域や地域での相談窓口の情報提供	目標値		5	10	15	20	20				
	実績値		22	2	14	23	30				
c）ゲートキーパー養成講座（再掲）	指　標	アンケートで「地域の見守りが大切」の回答割合（%）						・職員、市民対象すべての養成講座において、「地域の見守りの大切さ」の認識について理解が良好。 （参考）ゲートキーパー養成講座実績 職員向け（教職員含む）：4回180人、市民向け：8回195人	A	子育て中の方、介護中の方、高齢者などの孤立・孤独を予防するためには地域づくりにつながる取組が重要である。地域のネットワークづくりの一環として市民向けゲートキーパー養成研修を広く実施する。	健康づくり課
目的：自殺リスクのある人に気づき、専門機関へ繋げられる人を増やす。 内容：ゲートキーパーについてび、専門機関につなぐことができる人を養成する講座を開催	目標値	80	80	80	80	80	80				
	実績値	―	66.7	67%	91%	90%	95%				
d）「こころの体温計」の運用	指　標	10代のアクセス数（件）						こころの体温計の質問項目の中で、性別について、男・女以外に「その他」の回答項目を追加したところ、毎月10件以内のアクセスがあった。 若年者が抱える様々な悩みに対応できるように、SNSを活用した相談窓口の周知などを行った。 中高生対象の配布時期：毎年9月、3月（中学のみ）、年間アクセス数：27,379件	A	LGBTQに関連する悩みを抱える思春期の自殺リスクが高いことを踏まえ、悩みに応じた適切な相談窓口につなげられるよう、配布リーフレットの掲載情報を見直し対応する。 また、若年層が抱える悩みは様々であり、ヤングケアラーなどの相談窓口も追加して周知を行う。	健康づくり課
目的：自分のストレスの状態に気づける人を増やす。 内容：ホームページにメンタルセルフチェックシステム「こころの体温計」を公開し、自分のストレス状態に早期に気づく機会を提供	目標値	1,500	1,550	1,600	1,650	1,700	1,700				
	実績値	1,500	1,479	997	2,372	6,507	2,914				
イ　妊産婦のこころのケア対策事業の実施											
a）妊娠届出時面接の実施	指　標	妊娠届け出時面接の実施率（%）						母子保健コーディネーター2名を中心として、全妊婦及び同席者を対象とした面接により母子健康手帳交付。交付と同時に状況に応じた助言・支援を行った。また継続支援が必要な場合は電話等での継続支援を行った。 妊娠届出数723件　転入者54件	A	こども家庭センター内での子育て世代包括支援センターの役割として切れ目のない支援の充実を図り、児童福祉部門とも、さらに連携強化や体制づくりに努める。	こども家庭支援課
目的：安心して出産・子育てができる。 内容：妊娠届出時の面接を行い、切れ目のない支援を実施	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	100	100	100	100	100	100				
b）妊産婦新生児訪問事業	指　標	妊産婦新生児訪問の実施率（%）						妊娠から出産にかけて、母親は心身が不安定になりやすいため、児との生活に慣れ、子育てが安心できるよう訪問を実施した。里帰りについても、自治体間で連携をとり支援した。また、新型感染症拡大防止に配慮し、電話相談にする等柔軟に対応した。状況によってエジンバラ産後うつ病質問票を実施し、高値の産婦には、産後ケア事業実施につなげるなど、さらに切れ目のない支援に努めた。	A	今後も助産師や保健師による家庭訪問を継続実施し、妊娠期から出産、子育てまでの日常生活全般における切れ目のない支援に努める。	こども家庭支援課
目的：妊産婦・新生児の健康を守る。 内容：助産師や保健師による家庭訪問を行い、日常生活全般における相談等支援を実施し、妊産婦の不安緩和や健康管理、産後の経過確認、新生児の健全育成支援を実施	目標値	95	95.5	96	96	96	96				
	実績値	96.4	95.1	96.0	96.9	97.0	96.4				
c）乳幼児健康診査での相談	指　標	1歳6か月児健診で「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある」母親の割合（%）						全健診で保健師等による問診を実施し、各月齢に応じた発育・発達の確認の他、健康の保持増進、食育やことばの発達を促し、安心して子育てができるよう支援に努めた。 また、母自身のこころとからだの状態も確認し、必要時に個別相談及び地区担当保健師や関係機関で相談ができるよう支援し、切れ目ない支援の場としても努めた。	A	乳幼児健診を通して、子どもの成長に伴う子育ての大変さや不安を予測した助言と情報提供に努める。 また、妊娠期から継続的な関わりの体制により、安心して子育てに臨めるよう、育児支援の充実を図る。	こども家庭支援課
目的：乳幼児の発育発達や子育て全般、養育状況等の不安の軽減 内容：集団健診の特性を活かし、妊娠期から継続的な関わりの体制により、問診及び個別相談を実施。	目標値	87	88	88	88	88	88				
	実績値	84.6	86.5	86.8	79.9	83.0	83.2				
ウ　介護者支援											
a）介護者からの電話相談窓口	指　標	電話相談等延件数（件）						介護者が困ったり悩んだりした時に相談できる窓口として電話等で対応し、介護負担の軽減や精神的な支援をした。また、曜日はスタッフが常駐する日とし、定期的に相談したい方が同じ看護師による対応するなど安心して相談できる体制づくりができた。	B	ほっとラインの曜日にかかる電話相談は多くないが、全体の相談者数は増加している。介護している家族が不安や悩みを相談できるような体制を維持する。	高齢介護課
目的：家族の身体的・精神的負担の軽減を図る 内容：介護者からの電話相談窓口「介護者ほっとライン」の設置	目標値	―	―	―	―	―	―				
	実績値	15	8	11	8	12	2				
b）介護者セミナー	指　標	介護者セミナーの延参加者数（人）						①成年後見人制度と地域高齢者支援センターの紹介②認知症の方との関わり方③老人ホームの選び方、の3日間で講座を実施。今後に向けての実践的な講座の人気が高く参加者数が多かった。	B	アンケート等から市民のニーズに合った内容を検討し開催する。	高齢介護課
目的：家族の身体的・精神的負担の軽減を図る。 内容：介護者の体験談や介護の知識などの普及啓発を行う「介護者セミナー」の実施	目標値	100	120	150	170	200	200				
	実績値	186	71	0	79	84	81				
c）介護者のつどい	指　標	介護者のつどいの延参加者数（人）						同じ悩みや経験をもつ介護者同士が交流する「介護者のつどい」を市と地域高齢者支援センターとの共催で実施。 6回　延54人	B	各地域高齢者支援センターに配置の認知症推進員と連携を図りながら、開催していく。	高齢介護課
目的：家族の身体的・精神的負担の軽減を図る。 内容：同じ悩みや経験を持つ介護者同士が交流する「介護者のつどい」の実施	目標値	100	120	140	―	―	―				
	実績値	36	76	54	50	33	54				

基本施策　〇睡眠と休養の重要性の啓発

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　幼小中PTA向け健康講座～こころの健康編～	指　標	アンケートで「実践してみようと思った」割合（%）						・講座の依頼は5件あり、依頼件数は増加傾向。育児や就労、介護など様々な役割を担う保護者は自身の健康管理をまず大切にし、加えて、子どもや家族のこころの健康状況にも気にかけてもらうよう啓発した。また、保護者のセルフケアにつなげるため、ヨガ講座のほか、実践的な睡眠講座を開催した。アンケート結果から睡眠の悩みを抱える保護者が一定数いることがわかった。	B	PTA向け講座は、青壮年期に啓発できる貴重な機会であり、今後も継続する。課題は教職員の都合で午後3時頃からの開催依頼が多いこと。保護者の参加につながるよう、学校側の協力をお願いする。また、参加者のアンケートでは、睡眠の悩みを抱える者が一定数おり、睡眠に関する啓発を様々な機会を活用して啓発する必要がある。	健康づくり課
目的：多くの若い世代に「睡眠・休養」に関心を持ってもらう。 内容：「活動と休養のバランス」についての出張講座を実施	目標値	70	70	70	70	70	70				
	実績値	70.0	86.1	―	100	94	92.7				

基本施策　〇自殺予防対策の推進

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　自殺対策計画の策定及び推進	指　標	講座アンケートでゲートキーパーの認知度（%）						・秦野市自殺対策推進委員会及び庁内連絡会議において、自殺対策計画の進捗状況を確認するとともに、第2期計画策定のため検討を行った。パブリックコメントを実施し、市民の意見を取り入れ、第2期計画を策定した。 自殺対策推進委員会：11関係機関、年3回開催 庁内連絡会議：13構成課、年2回開催	A	第2期計画では自殺者数ゼロを目標値に掲げ、市民と協働で自殺対策を推進することとした。ハイリスク者の効果的な支援につなげるため、庁内や関係機関との連携を図り、継続した支援につなげられるよう体制整備を進める。特に、壮年期死亡を減らすため、市内医療機関・商工会（や工場協会）と連携し、現状の把握から取り組みを進める。	健康づくり課
目的：地域の自殺の実態を把握し、実情に合った 自殺予防対策を推進する 内容：計画を策定し、進行管理をする	目標値	5	8	12	16	20	20				
	実績値	―	11.3	17.7	12	11	11				

健康増進計画（健康はだの21）第4期計画

基本の方向性　Ⅱ　健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり（疾病予防と健康増進）

取組分野　4　喫煙

評価指標		計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	目標値
非喫煙者の増加	男性	79.6%	80.4%	79.9%	89.1%	90.0%	80%	85.8%	82%
	女性	94.8%	95.3%	95.1%	89.7%	89.3%	95%	91.8%	96%
市内小中学校での喫煙防止教育回数の増加		3校	3校	5校	1校	2校	3校	3校	全校
1歳6か月児健診時の父と母の非喫煙者の増加	父	65.2%	65.2%	66.1%	71.5%	67.6%	71.4%	71.6%	70%
	母	94%	93.2%	93.8%	92.9%	92.4%	93.9%	93.6%	95%

重点目標　<たばこを吸わない人を増やす>

市の主な取組（事業名）／内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　市内小中学校での喫煙防止教育	指　標	アンケートで「喫煙したいと思わない」割合（%）						感染症の影響が続き、実施校は3校（小学校2校：139人、中学校1校：210人）。今年度よりスライドを一新し、動物実験の動画やがんの画像といったグロテスクな媒体を排除し、具体的な数値やアニメ教材（DVD）を取り入れることで理解を深めやすい内容に工夫した。	A	若い世代から喫煙することのリスクを伝えることにより、将来に喫煙する人の減少を目指す。今後も実施校を増やしていくとともに、市内の小中学校での喫煙防止教育の実施状況の把握に務めていく。	健康づくり課
目的：「たばこを吸わない」と選択できる未成年を増やす。 内容：小中学校における、たばこの害や喫煙防止に関する講演会の実施	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	99.0	97.7	91	96	90	97.6				

基本施策　〇喫煙の害についての普及啓発及び卒煙支援

市の主な取組（事業名）／内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　普及啓発事業	指　標	呼気検査の体験者数（人）						「市民の日」等、イベントの規模縮小により、タバコの害を体験する普及啓発が実施できなかった。	D	イベントを通じて、非喫煙者にも、呼気検査等の体験をしてもらうことで、たばこの害の理解を深める機会となっていたが、感染予防の観点から、検査器具の連続使用が難しい。チラシやパネル等視覚を利用して啓発していく。	国保年金課 健康づくり課
目的：喫煙の害について正しく認識する人を増やす。 内容：イベントでの簡易COPD体験の実施及びチラシの配布	目標値	250	250	250	250	250	250				
	実績値	251	196	―	―	―	―				
イ　個別健康相談	指　標	特定保健指導で行動変容（禁煙・本数減）した割合（%）						・特定保健指導の参加者で喫煙者は9人。支援は喫煙と生活習慣病のリスク等の情報提供を行った。 喫煙者のうち禁煙希望者は6人であり、禁煙ができたのは2人、本数減の行動変容につながった人が2人であった。	C	健康意識の高まり等により、市民の喫煙状況も変化してきている。最新情報を取り入れながら、禁煙につながる支援のスキルアップ及び医療機関での治療についても周知し、正しい情報とともに禁煙支援の拡充を図る。	健康づくり課
目的：禁煙に関心がある人が、禁煙できる。 内容：禁煙希望者への個別相談支援及び禁煙外来などの情報提供、特定保健指導の実施	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	47	64.7	62.5	31.6	41.7	66.6				
ウ　周産期からの禁煙支援											
a）妊娠届出時、おめでた家族教室	指　標	4か月健診時の母の非喫煙率（%）						全妊婦を対象に面接により母子健康手帳交付しており、アンケートにおいて、喫煙している妊婦及び家族に対し、禁煙指導を実施し、禁煙外来等の情報提供した。 （妊娠届出時非喫煙率：97.6%）	A	引き続き、母子健康手帳交付時や、おめでた家族教室等妊娠を機会として、禁煙支援の充実を図る。	こども家庭支援課
目的：妊産婦の健康を保持し、将来にわたって子どもの健康の守る。 内容：妊娠期からの禁煙支援及び受動喫煙を防止を支援	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	95.4	94.5	95.4	94.7	94.3	94.8				
b）乳幼児健診での禁煙支援	指　標	1歳6か月児健診時の父母の非喫煙率（%）						4か月児・1歳6か月児健診・3歳6か月児健診において、問診で喫煙状況について確認。喫煙者には、禁煙のリーフレットを使用しながら禁煙の重要性について説明を実施。	A	出産後、子どもの年齢が上がるにつれて、禁煙意識が低下する傾向があるため、妊娠～新生児訪問～乳幼児健診と継続して繰り返し、喫煙防止について支援する。	こども家庭支援課
目的：将来にわたって子どもの健康の守る。 内容：4か月児健診、1歳6か月児健診時に保護者の喫煙状況を確認し、禁煙支援を実施	目標値	父70 母95	父70 母95	父70 母95	父70 母95	父70 母95	父70 母95				
	実績値	父65.2 母93.2	父66.1 母93.8	父71.5 母92.9	父67.6 母92.4	父71.4 母93.9	父71.6 母93.6				

基本の方向性　Ⅱ　健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり（疾病予防と健康増進）

取組分野　５　歯・口腔

※３　市民健康診査問診票の変更による

評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	目標値
3歳6か月児歯科健診におけるむし歯がない幼児の増加	85.5%	86.5%	88.6%	90.0%	92.0%	91.1%	91.9%	86%
年に１度以上、歯科健診を受けている人の増加	33.9%※1	《参考57.4%》※2	《参考58.3%》※2	―	―	61.0%	―	45%
補助的清掃用具の使用について普及啓発をすることで、口腔内のセルフケアをしている人の増加	54.1%	61.0%	61.1%	―※3	―	72.8%	75.3%	65%
80歳（75～84歳）で20本以上自分の歯を有する人の増加	38.1%※1	《参考42.9%》※2	《参考43.0 %》※2	―	―	36.6%	―	50%

データ抽出元　※1：健康状況アンケート調査　※2：市民健康診査、特定健康診査問診票

重点目標　＜いつまでも自分の歯でおいしく食べられる人を増やす＞

基本施策　〇乳幼児健診におけるむし歯予防の推進

市の主な取組（事業名）／内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　歯科保健事業											
a）妊婦歯科健康診査	指　標	妊婦歯科検診受診率（%）						母子健康手帳交付時、受診の必要性を説明して妊娠中から口腔衛生に関心を持つきっかけとなるよう、受診勧奨に努めた。また、歯科医師会のホームページに掲載し、周知に努めた。 母子健康手帳交付733人 受診数196人	A	より多くの妊婦やその家族に、口腔衛生に関心が持てるように、受診を促し、妊婦と胎児の健康管理及び早産や低出生体重児の出産リスクの軽減に努める。	こども家庭支援課
目的：妊婦の口腔衛生の向上を図り、胎児の健全な発育を促す。 内容：母子保健法第13条に基づき、秦野伊勢原歯科医師会に委託し、妊娠中1回の歯科健康診査費用の補助を実施 ※平成30年6月からの開始事業。	目標値	20	20	20.5	20.5	21	21				
	実績値	14.3	20.3	20.8	20.6	25.3	26.7				
b）乳幼児健康診査における歯科健診及び歯科相談	指　標	3歳6か月児健診時の虫歯がない幼児の割合（%）						令和5年度に、離乳食セミナー（ステップアップ編）を開始し、歯の生え始める7か月児～10か月児を対象とし、歯科衛生士から歯についての講話を行う。また、1歳6か月児健診や2歳児歯科健診において個別の歯科相談を行い、むし歯の発生予防や母乳、ミルク、食事、おやつ等の食生活、仕上げ磨き、また噛む大切さを伝えることで、口腔の保持増進に努めた。	A	引き続き、健康な体の基礎が作られる乳幼児期からの口腔の保持増進に努める。	こども家庭支援課
目的：生涯にわたっての、口腔の健康保持増進を図る。 内容：乳幼児健診において、歯科健診及び歯科相談を実施	目標値	86	86	87	87	88	88				
	実績値	86.5	88.6	90	92	91.1	91.9				
C）幼児食と歯のセミナー	指　標	自宅で虫歯予防を実践できそうと思った割合（%）						「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくりと発達の関係性を伝え、食を通じたむし歯予防と、家族での生活習慣の見直しを啓発した。 実施回数　6回、参加者数　81人	A	セミナーに参加しやすいように4か月児健診時の集団指導で、リーフレットを配布し、家族で食育及び虫歯予防に取り組めるよう支援に努める。	こども家庭支援課
目的：子どもの食べる意欲、身体、情緒、ことばの発達を促す食事の大切さを伝える。 内容：食べることからのむし歯予防を啓発し、食事の大切さを伝える教室の開催	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	100	98.1	100	100	97.8	97.0				

〇予防歯科及びかかりつけ歯科医の必要性の普及啓発

市の主な取組（事業名）／内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　歯周病検診	指　標	歯周病健診受診率（%）						歯周疾患による口腔機能低下を予防するために、対象年齢へ受診券を送付し、歯周病検診を実施。新型感染症の受診控えによる低下した受診率を向上させるために、未受診者へ受診勧奨はがきを送付し、受診率の向上がみられた。	A	令和6年度から対象者に20歳、30歳が追加となる。青壮年期の受診率の向上を図るため、受診勧奨の工夫をしていく。	健康づくり課
目的：歯周病の早期発見・早期治療につなげる。 内容：40・50・60・70歳での検診を秦野伊勢原歯科医師会に委託し実施	目標値	5.5	5.6	5.7	5.8	5.9	5.9				
	実績値	5.9	5.6	5.4	2.7	3.5	6.3				
イ　歯科保健普及啓発事業（歯と口の健康週間事業）											
a）歯と口の口腔ケア講演会	指　標	口腔ケア講演会の参加者数（人）						歯と口の健康週間に実施する講演会を開催。フッ化物塗布は小学1年生に対象を絞り、実施した。 国保加入者へ送付する特定検診リーフレットにオーラルフレイル予防・口腔ケアの情報提供を掲載し、普及啓発に努めた。	B	講演会については、市広報やタウンニュース等による周知を継続と、参加定員を増やし、参加者の増加を図る。	健康づくり課
目的：歯と口腔に関心がある人を増やす。 内容：正しい歯と口腔のセルフケアを普及する講演会の実施	目標値	130	135	135	140	140	140				
	実績値	130	157	―	―	58	54				
b）口腔がん検診	指　標	口腔がん検診の受診者数（人）						歯と口の健康週間に実施していた口腔がん検診は、時期をずらして休日歯科診療所にて2月に実施した。定員は20名のまま実施。 周知は広報のみで行った。	C	1人でも多くの人が早期発見、早期治療に繋がるよう、歯科医師会と定員枠の増加や受診方法の検討が必要。各医療機関での実施に移行することも継続して検討していく。	健康づくり課
目的：口腔がんの早期発見・早期治療 内容：口腔がん検診の実施	目標値	50	70	70	70	70	70				
	実績値	57	68	―	18	20	20				
ウ　一般介護予防事業（口腔）	指　標	口腔に関する講座の延参加者数（人）						・公民館等で行う口腔講座 フレイル予防教室　2会場　延32人 出前講座　10回　延274人 ・ミニデイサービスでの講座　8回　延106人 ・自主事業　9回　延139人 ・さわやか体操実施団体　23回　延265人 ・後期高齢者健診低栄養フォロー支援（栄養支援含む）　実17人 ・日常生活支援総合事業「おいしく食べよう歯っぴー訪問（訪問C）」　口腔訪問件数：延35人	B	通いの場や各公民館で講座を行うなど、地域に出向いて講座を実施し、オーラルフレイルやフレイル予防の周知を図った。高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施事業や総合事業として、要介護状態への移行を予防するため、口腔環境の改善に関する内容も取り入れ、口の健康から体の健康につながるよう、個別支援を行った。 引き続き、オーラルフレイルについての普及啓発の充実と、より多くの高齢者が個々の状況にあった適切な口腔ケアが身に付くよう、地域高齢者支援センターと連携し、支援の充実を図る。	高齢介護課
目的：適切な口腔清掃と健口体操の普及啓発により、高齢者の口腔に対する関心を高める。 内容：口腔に関する講座・相談の実施	目標値	800	850	900	950	1000	1000				
	実績値	693	700	187 ⇒397	426	756	868				

基本の方向性　Ⅱ　健康維持向上のための生活習慣の改善と環境づくり（疾病予防と健康増進）

取組分野　６　感染症

評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	目標値
感染症に関する注意報、警報等の情報提供	100.0%	100.0%	100.0%	100%	100%	100%	100%	100%
高齢者インフルエンザ予防接種の接種率の向上	43.2%	42.4%	45.0%	60.2%	50.4%	52.0%	48.7%	48%
新型インフルエンザ等対応訓練の実施	年1回	年1回	年１回	―	―	―	―	年1回

重点目標　<感染症の正しい知識の普及啓発>

基本施策　○感染症などについての正しい知識の普及啓発

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　普及啓発の実施	指　標	HPの感染症情報更新数（回）						・情報が入り次第、随時、HP、緊急情報メール、LINEを活用し、市民に予防啓発等を実施した。	A	感染症の蔓延防止のため、より多くの市民に情報を提供するためにも緊急情報メールや市公式LINEを利用した情報発信を迅速に行っていく。	健康づくり課
目標：感染症に関する情報を市民が得る。 内容：感染症に関する情報を随時、ホームページで更新して発信	目標値	随時	随時	随時	随時	随時	随時				
	実績値	10	17	14	16	10	9				
イ　普及啓発の実施（乳幼児等）	指　標	4か月児健診で予防接種についての説明（4か月児健診受診率（%））						新生児訪問時には乳児期初回に接種する予防接種予診票を手渡しながら、今後の予防接種のスケジュールについて説明した。さらに、全健診の問診時に予防接種や感染症予防について、確認し説明を実施。予防接種が進んでいない場合は診察医師からも必要性について説明した。	A	出生届出の際に、定期接種に関する情報冊子「予防接種と子どもの健康」を提供するとともに、出生後2か月時に接種するワクチンの予診票を同封し、啓発に努める。また、新生児訪問の際も、今後の予防接種のスケジュールについて説明し、感染症予防及び予防接種の接種率の向上に努める。	こども家庭支援課
目標：乳幼児がかかりやすい感染症やその予防に関する情報を市民が得る。 内容：新生児訪問や4か月児健診時個別面接や集団教育で実施	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	99.4	97.4	97.2	99.4	97.1	97.0				

基本施策　○予防接種助成による感染症予防事業の実施

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　予防接種事業の実施											
a）乳幼児から20歳未満の予防接種	指　標	麻しん・風しん（混合・単独）（一期）ワクチンの接種率（%）						乳幼児健診における問診や各医療機関における接種勧奨により、毎年度における接種率は9割程度の高水準である。 1歳以降に行う定期接種（MR及び水痘その他）は、接種率が低下する傾向があるため、1歳6か月児健康診査の案内時に接種勧奨チラシを同封し、接種率の向上に努めた。 対象者数：829人、接種者数：706人	B	接種率向上のため、引き続き、1歳以降に行う定期接種（MR及び水痘その他）の接種勧奨チラシを、1歳6か月児健康診査の案内時に同封し、接種率の向上に努める。医療機関とも連携し、接種勧奨を行う。	こども家庭支援課
目的：疾病予防ができる。 内容：疾病予防のため予防接種法に基づく、乳幼児から20歳未満の予防接種を実施	目標値	100	100	100	100	100	100				
	実績値	94.3	93.0	90.4	96.7	88.0	85.2				
b）65歳以上の季節性インフルエンザ予防接種	指　標	ワクチン接種率（%）						市民の利便性等を考慮し、秦野伊勢原医師会、平塚市医師会、足柄上医師会だけでなく個別医療機関と契約することでワクチン接種率の向上を図った。	A	市民の多くが感染症対策を行い、インフルエンザの流行が収まっている中で、インフルエンザワクチン接種の重要性を再度考え、必要な方が接種できる体制づくりを行う。	健康づくり課
目的：季節性インフルエンザ予防ができる。 内容：65歳以上の季節性インフルエンザ予防接種の実施	目標値	44.0	45.0	46.0	47.0	48.0	48.0				
	実績値	42.4	45.0	60.2	50.4	52.0	48.7				
c）高齢者用肺炎球菌予防接種	指　標	65歳のワクチン接種率（%）						市民の利便性等を考慮し、秦野伊勢原医師会、平塚市医師会、足柄上医師会だけでなく個別医療機関とも契約することでワクチン接種率の向上を図った。 経過措置は2019年3月末が期限だったが、全国的に接種率が伸びず、現行の取扱いを2023年度末まで5年間延長する方向になった。 （H29年度の接種率：48.4%）	A	令和6年度から接種対象者が変更となり、65歳の方へ変更となるため、適切に情報提供を実施する。	健康づくり課
目的：肺炎予防ができる。 内容：高齢者肺炎球菌予防接種の実施	目標値	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0				
	実績値	43.7	40.4	42.8	42.3	35.6	36.5				

基本施策　○新型インフルエンザ及び新興感染症に関する情報収集と対応訓練の実施

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　危機管理体制の構築											
a）平時からの新興感染症対策（情報収集）	指　標	研修会や会議等への出席数（回）						・県及び医師会が主催する会議に参加し、関係機関と課題の共有を図った。 ・対策本部会議（1回）、感染症対策部会（1回）を開催し各課との情報共有を図りながら、感染症の拡大防止対策を講じた。 ・令和2年度から開始した市内公民館等での除菌水（微酸性次亜塩素酸水）無償配布を5類感染症までの5月7日まで継続した。配布量（627.5）ℓ（令和5年度）	A	庁内関係各課、県及び医師会等の関係機関と連携を強化し、感染症対策を継続していく。	健康づくり課
目標：危機時に関係機関と連携協力できる関係を築く。 内容：平時からの新興感染症対策及び情報収集の実施	目標値	―	―	―	―	―	―				
	実績値	3	10	28	25	14	4				

基本の方向性　Ⅲ　生活習慣病の重症化予防

取組分野　1　がん

評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	目標値
子宮頸がん（20～69歳）検診受診率の向上	12.6%	11.4%	11.1%	11.6%	10.9%	10.0%	9.4%	50%
乳がん（40～69歳）検診受診率の向上	17.8%	17.0%	17.1%	18.9%	16.6%	16.2%	15.9%	50%
大腸がん（40～69歳）検診受診率の向上	8.1%	7.0%	6.5%	6.1%	6.6%	5.9%	5.6%	50%
精密検査受診率（大腸）の向上	70.8%（H28年度）	81.7%（H29年度）	90.6%（H30年度）	87.9%（R元年度）	85.5%（R2年度）	82.4%（R3年度）	79.8%（R3年度）	90%

重点目標　<がん検診を受診する人を増やす>

基本施策　○　悪性新生物（がん）の発生予防のための生活習慣についての普及啓発

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　普及啓発事業	指　標	がん検診リーフレット配布枚数（固定配布）						・健康増進連携企業、神奈川県の協力で、がん検診の案内をリーフレットで周知。 ・健康増進連携企業と協力し未病改善ブースを開き、イオン秦野店において乳がんやその他のがんについて幅広くリーフレットを配布。 ・がん検診について周知する機会を増やすため郵便局（市内14局）にがん検診普及のためのポスターの掲示や申込書の配架を実施した。 ・小中学校で喫煙防止教育を実施し、たばこの発がん性について教育ができた。	A	引き続きナッジを活用したリーフレットの検討をし、民間や郵便局を活用してがん検診の周知の強化をしていく。	健康づくり課
目的：がんの発生予防のための生活習慣について知ってもらう 内容：広報などによるがん検診受診案内の実施 ポスター作成やパンフレットの配布 小中学校において喫煙防止に関する講演会の実施	目標値	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所				
	実績値	14350枚 99か所	14350枚 99か所	14350枚 99か所	18600枚 107か所	20000枚 121か所	18000枚 115か所				
	指　標	たばこの害や喫煙防止講演会の実施数（校）									
	目標値	3	3	4	4	5	5				
	実績値	3	5	1	2	3	3				

基本施策　○　科学的根拠に基づくがん検診の実施と受診率向上のための普及啓発及び環境整備

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R5）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　がん検診の実施											
a）子宮頸がん検診	指　標	子宮頸がん検診（20～69歳）の受診率						受診行動しやすい環境整備と案内を実施 ・集団検診では、21歳の子宮頸がん無料クーポンを送付。対象者には、「女性医師による検診（レディスデイ）」を案内した。 ・レディスデイ（3日間）：受診者：221人（クーポン利用者11人）	B	今後も、受診行動に結び付きやすい環境整備や案内を実施する。 施設・集団検診で、女性医師の案内及び施設検診では婦人科の相談が受けられることを明記し、検診を受けるメリット周知する。	健康づくり課
目的：子宮頸がんの早期発見をする。 内容：女性特有のがんを早期発見するため、子宮がん検診（個別・集団）を実施	目標値	20.1	27.6	35.1	42.6	50.0	50.0				
	実績値	11.4	11.1	11.6	10.9	10.0	9.4				
b）乳がん検診	指　標	乳がん検診（40～69歳）の受診率（%）						受診行動しやすい環境整備と案内を実施 ・集団検診では、41歳へ乳がん無料クーポン送付した。 ・今年度から国指針に沿いマンモグラフィ単独検診として実施。集団検診では、骨密度測定が同時にできる日を設定した。 ・10月、広報・タウンニュースでピンクリボン記事掲載、乳がん検診の周知を実施 ・レディスデイ（3日間）：受診者：203人（クーポン利用者21人）	B	今後も、受診行動に結び付きやすい環境整備や案内を実施する。 受診行動しやすい環境整備と案内を実施 ・集団検診では女性のみを対象とした4がん検診日乳がんを同日受診できるように土日に実施する。 ・施設検診では、10月のピンクリボン月間に合わせ日曜日検診を実施。	健康づくり課
目的：乳がんの早期発見をする。 内容：女性特有のがんを早期発見するため、乳がん検診（個別・集団）を実施	目標値	24.3	30.8	37.3	43.8	50.0	50.0				
	実績値	17.0	17.1	18.9	16.6	16.2	15.9				
c）大腸がん検診	指　標	大腸がん検診（40～69歳）の受診率（%）						受診しやすい環境整備のため、大腸がん検診非実施日である乳がん検診時の受付や家族等による検体提出の受け付けを実施。	B	受診率を増やすため、大腸がん検診の必要性や採便方法等について、様々な講座を利用したトピック的な普及啓発も取り入れる。 乳がん検診実施時に大腸がん検体提出ができるように継続する。	健康づくり課
目的：大腸がんの早期発見をする。 内容：大腸がんの早期発見するため、大腸がん健診（集団）を実施	目標値	16.5	24.9	33.3	41.7	50.0	50.0				
	実績値	7.0	6.5	6.1	6.6	5.9	5.6				
イ　普及啓発の実施											
目的：市民ががん検診について正しい情報を知る。 内容：広報などによるがん検診受診案内の実施やポスター作成やパンフレットの配布	指　標	子宮頸がん検診の新規登録者数（人）						・がん検診登録を勧奨するパンフレットは、申込をしないと受診できないことを明示した内容に改善し民間の協力を得てイベント（未病改善ブース）等でも幅広く配布した。 ・広報掲載等、がん検診受診案内の実施 ・リーフレットやホームページ等でがんを予防するための生活習慣の普及啓発を実施	B	普及啓発を実施する機会や配布数は増加しているものの、目標値には達成しなかった。今後も継続していくことが必要だが、医療機関、公的な場所での周知はほぼ行き届いているため、民間の協力を活用した周知に力を入れていく。	健康づくり課
	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000				
	実績値	1,287	1,624	1,317	2,019	1,839	1,640				
	指　標	乳がん検診の新規登録者数（人）									
	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000				
	実績値	1,117	1,498	1,266	1,856	1,815	1,701				
ウ　受診勧奨事業											
a）無料クーポン券の配布及び受診勧奨	指　標	子宮頸がん検診無料クーポン券利用率（%）						・乳がん・子宮頸がんは、女性のがんの中でも罹患する人が多く、特に、20～40歳代の女性では乳がんが死亡原因の上位であるため、20歳（子宮頸がん検診）及び40歳（乳がん検診）の年齢を対象に無料クーポン券を配布し、受診勧奨を実施。 ・青森大学竹林教授の指導の下ナッジを活用した無料クーポン券の見直しを行った。 ・電子申請による優先枠を設けた。 ・子宮頸がんワクチンを接種しても検診は必要なお知らせを無料クーポンの案内に記した。 ・子宮頸がん検診は、10月と1月に、乳がんは1月に未受診者にはがきによる個別受診勧奨を実施し利用率が向上した。	A	受診行動しやすい環境整備と案内を実施。無料クーポン券利用率が低い子宮頸がん検診、乳がん検診については受診勧奨はがきを送付し、若年層の受診率を向上させるための取組みを継続していく（子宮頸2回、乳がん1回送付予定）。 子宮頸がんワクチン接種と検診（2年に1度）が子宮頸がんに予防早期発見に必要であることを周知していく。	健康づくり課
目的：若年層の受診率を上げる。 内容：無料クーポン券（子宮頸がん・乳がん）の配布及び受診勧奨	目標値	20.1	27.6	35.1	42.6	50.0	50.0				
	実績値	8.8	8.1	11.8	12.9	8.07	10.4				
	指　標	乳がん検診無料クーポン券利用率（%）									
	目標値	24.3	30.8	37.3	43.8	50.0	50.0				
	実績値	18.3	14.5	19.3	19.4	19.0	28.5				
b）受診年齢到達者への受診勧奨	指　標	40歳到達者の乳がん検診登録申込率（%）						がん検診の受診促進及びがんの早期発見につなげるため、翌年度に受診することができる年齢に達する方に対し、がん検診、申込勧奨はがきを送付した。	B	引き続き、がん検診の有効性、定期的に受診することの大切さを周知していく。40代から50代の新規登録者は、主として電子申請を活用しているため、今後も電子申請を周知していくとともに、検診を受けやすい環境整備を行い、受診率の向上に努める。	健康づくり課
目的：がん検診登録者を増やす。 内容：翌年度受診年齢に到達する方への受診勧奨	目標値	50	50	50	50	50	50				
	実績値	28.2	24.5	25.3	28.2	23.0	22.4				
	指　標	40歳到達者の大腸がん検診登録申込率（%）									
	目標値	50	50	50	50	50	50				
	実績値	14.8	12.0	11.1	14.5	13.3	10.2				
○　精密検査受診率の向上と結果の把握											
ア　精密検査受診率	指　標	大腸がん検診要精密検査受診率（%）						全国的に大腸がん検診の精密検査受診率は最も低いが、通知による精密検査のお知らせのほか、①結果票及び封筒の表に朱色で「重要」の印鑑を押す、②過去に精密検査の対象で、未受診者には、手書きのコメント及びリーフレットを封入した。	B	精密健康診査対象へのコメントを入れた通知や、未受診者への受診勧奨通知を継続実施する。	健康づくり課
目的：精密検査受診率を増やす。 内容：精密検査未受診者への受診勧奨	目標値	70	75	80	85	90	90				
	実績値	81.7（H29年度）	90.6（H30年度）	87.9（R元年度）	85.5（R2年度）	82.4（R3年度）	79.8（R4年度）				

健康増進計画（健康はだの21）第4期計画

基本の方向性　Ⅲ　生活習慣病の重症化予防

取組分野　２　生活習慣病

評価指標	計画策定時	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績※	目標値
特定健康診査受診率の向上	33.8%	34.2%	33.6%	30.6%	31.6%	33.2%	36.0%	40%
特定保健指導終了者割合の増加	18.5%	16.6%	14.2%	17.9%	18.5%	12.8%	9.0%	26%
特定保健指導対象者割合の減少	9.8%	9.7%	9.9%	8.7%	8.9%	9.7%	9.5%	8.5%

※R6.6.26現在速報値

重点目標　〈生活習慣病の重症化を防ぐ〉

基本施策　〇特定健康診査及び市民健康診査の受診率向上のための取組

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R4）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　普及啓発事業											
a）特定健康診査未受診者への受診勧奨	指　標	電話勧奨者の特定健康診査受診率（%）						・発送時点で特定健診未受診者25,387名（計2回）に受診勧奨はがきを送付。そのうち電話番号のある対象者1,002名へ電話勧奨を実施した。 ・平日に特定健診を医療機関へ受診できない対象者6909名に集団健診の参加勧奨を実施し、参加者152名に集団健診を実施した。	A	令和5年度は特定健診未受診勧奨事業に委託事業者を活用し、特定健診未受診者全てに通知による受診勧奨をすることができたため、受診率を約3%向上することができた。 集団健診もR5は2回実施し、対象者から好評であったため、R6は3回実施し、さらなる受診率向上につなげたい。	国保年金課
目的：特定健康診査受診率を向上する。 内容：健診対象者への個別通知及び未受診者に対する受診勧奨の実施（特定健康診査）	目標値	8	8	9	9	10	10				
	実績値	2.5	3.8	12.6	28.5	7.6	12.5				
b）ショッピングモール等での普及啓発	指　標	普及啓発の人数と回数（人/回）						・イベントは、イオンショッピングモール（96人）、保健福祉センターフェスティバル(79人）、市民の日（302人）で普及啓発を実施。 ・受診促進の声掛けや健康相談等を実施 健康サポート講座（9回、130人） グッバイ内臓脂肪（6回、45人） 血管イキイキ食活のすすめ（5回、40人） ・講座・相談会における特定健診の受診勧奨 「薬の講演会」（1回、17人） 「未病センターはだの健康相談会」（2回、14人） 「健康バス」（5回、187人） 「糖尿病予防講座」（2回、39人）	B	特定健康診査の周知徹底に合わせて、健診の必要性まで伝えるため、受診のメリット、未受診のリスク等を周知する方法を検討する。また、健診のみではなく、保健指導の利用にもつなげられるよう工夫する。	国保年金課
目的：特定健康診査受診率を向上する。 内容：イベント、健康講座・相談会等での健診受診の必要性について普及啓発を実施。ポスター、パンフレットの配布や個別面接	目標値	2,100人 28回	2,200 28回	2,300 29回	2,400 29回	2,500 30回	2,500 30回				
	実績値	2,469人 29回	2,140人 27回	556人 13回	585人 40回	1,090 人 36回	949人 33回				
イ　特定保健指導の実施	指　標	特定保健指導該当者のうち初回面接実施率（%）						初回面接実施者/特定指導対象者人数：88人/774人 （令和4年度：94人/772人） ・特定保健指導は、個別と集団を実施。 ・個別サポートには、「オンライン面談」の希望者を募ったが特に実施は出来なかった。 ・集団サポートには「内臓脂肪測定」6回実施。 ・2月と3月に各1回集団での特定健診を実施し、健診実施後に保健指導対象者へ初回面接を実施した。	B	初回面接実施率を向上させるため、引き続き集団健診の実施時に合わせて初回面接を行う。また、その際に初回面接を出来なかった対象者に対して、後日集団サポートを行う。	国保年金課
目的：生活習慣病、および予備群の減少を図る。 内容：特定保健指導対象者へ、保健師・管理栄養士がメタボリックシンドロームに着目して、3か月以上の生活習慣改善支援の実施	目標値	20	21	22	23	24	24				
	実績値	14.9	15.8	15.0	18.2	12.5	11.3				
ウ　健康ポイントプログラムの実施	指　標	アンケートで「健康ポイントラリー参加後、よい変化があった」割合（%）						・国民健康保険の納税通知書と併せて、6月に全世帯へ応募用紙を配付。 ・参加者は、自ら目標を立て実践している人や、健診を受診した人が多く見られた。 ・自宅で取り組める運動・食事のリーフレットの実践もポイントの対象とした。 ・応募者が60代、70代が大半を占めているため後期移行により応募者が少なくなってきた。 応募者：232件（R4：307件） 良い変化があった（162人）	A	応募者の減少対策として、電子申請システムを導入し、応募を簡素化した。また、景品の総数や健診受診をすると応募がすぐにできるように応募ポイントを変更し、応募者数を増加させる工夫を行った。	国保年金課
目的：特定健診の受診率の向上及び健康づくりの取り組みを実践する人を増やす。 内容：各健（検）診や健康教室の参加、健康づくりの取組をした者に対してポイントを付与（平成30年度から事業開始）	目標値	50	50	50	50	50	50				
	実績値	85.4	73.5	79.2	86.1	90.2	69.8				
エ　巡回型健康測定事業（健康バス事業）	指　標	健康測定会に参加者数（人）						東海大学の協力により実施し、公民館5か所で開催ができた。30歳代から70歳代まで幅広い年齢層が参加。「自分の健康状態がよくわかった」「生活習慣を見直せた」等、健康への意識付けにつながった。開催回数：5回、187人	A	公民館等の各地域に出向くことで、その周辺の地域住民がアクセスしやすい環境を整える。今後も、近隣の小学校等を通じて周知を図ることで、若い世代の参加者を増やし、生活習慣を見直すきっかけづくりを行う。	健康づくり課
目的：特定健診の受診率の向上及び健康への意識を高め、正しい生活習慣の動機づけを行う。 内容：東海大学健康学部との協働により、公民館等で健康測定（骨密度や体組成測定）を実施	目標値	150	150	150	150	150	150				
	実績値	170	187	25	149	213	187				

基本施策　　○生活習慣病の重症化予防のための取組

市の主な取組（事業名） 内容	目標値・実績値等	年度 H30	R1	R2	R3	R4	R5	実施状況及び成果等（R4）	担当課評価	課題と今後の対策（方向性）	
ア　生活習慣病重症化予防事業											
a）HbA1c6.5%以上に対する受診勧奨	指　標	受診者数の割合（%）						特定健診受診の令和5年度の電話かけ対象者は85人のうち、52人は既に医療機関に受診済み、残り33人中10人が受診につながった。 前年度同様、電話がつながらない場合等は文書による受診勧奨と糖尿病重症化予防のための資料を併せて送付した。 また、75歳から79歳の後期ドック及び後期高齢者健診の対象者に対しても健康づくり課と協力して電話でのフォローアップを実施している。	A	生活習慣病重症化予防のため、引き続き電話によるフォローアップと電話不通の場合の文書及び資料送付を行う。 電話かけし、受診勧奨をすると指導や相談は不要と言われることもあるが、継続して勧奨を行い重症化を予防していきたい。	国保年金課
目的：医療機関に受診できる。 内容：レセプト等より、特定健康診査受診者でHbA1c　6.5%以上の未受診者に対する電話受診勧奨	目標値	26	27	28	29	30	30				
	実績値	27.3	33.3	32.4	30.8	31.0	30.3				
b）かかりつけ医と連携した生活習慣改善プログラム	指　標	生活習慣が改善したと申告した人の割合（%）（食事・運動）						・レセプト及び特定健診結果から糖尿病性腎症の2期・3期の者を対象に（61名）、保健指導案内を送付し、6名の申込があった。 かかりつけ医が記入した「保健指導確認証明書」をもとに、専門職による保健指導を半年間、実施した。最終的には3名が改善し、良好な結果が得られ、生活習慣が改善したとの結果となった。 （R5年度　国保対象者5名、後期高齢対象者7名）	B	国保・後期各定員15名に対して、申込みが例年6-7人となっている。対象者の参加率を向上させるため市内糖尿病専門医から案内リーフレットの助言をもらったり、かかりつけ医に対象者への参加勧奨通知を送付するなどを行い、定員を満たすようにつなげていきたい。	国保年金課
目的：生活習慣が改善する人を増やす。 内容：かかりつけ医で治療を継続しながら生活習慣改善を目指すプログラムの実施	目標値	66	67	68	69	70	70				
	実績値	85	78.6	55.5	100	83	50				
イ　生活習慣病予防事業（保健事業）											
a）メタボリックシンドロームの改善、予防のための講座（再掲）	指　標	講座参加者の中で、特定保健指導対象者の参加率（%）						適度な食事のとり方、生活習慣病予防のための正しい知識が学べ、日常生活でも取り入れやすい内容で実施。 実施回数：5回 ・参加者40人（延べ人数）実人数は24人のうち、11人が特定保健指導対象者（27.5%）。（参加者11人は、特定保健指導対象者全体　　844人のうち、1.3%の割合だった。） ・本講座が基礎的な内容であり、改善を目指す意欲的な人は病態編へ流れていることが、参加者が少ない要因である。	C	講座を通して適度な食事のとり方等を学び、メタボリックシンドロームの予防・改善につなげる。 特定保健指導対象者の参加割合を増加させるため、基礎編だけでなく、応用編の内容も加味することなど、魅力ある内容を検討する。 令和6年度は、年4回開催予定。	国保年金課 健康づくり課
目的：食事の適量を知り、望ましい食行動を学ぶことができる。 内容：メタボリックシンドロームの改善と予防のための食事を学ぶ講座の開催 （事業名）血管イキイキ食活におすすめ（メタボ編） （対象）特定健康診査受診者	目標値	40	45	50	55	60	60				
	実績値	34.3	56.1	42.9	24.4	29.4	27.5				
b）病態別の料理講座（再掲）	指　標	病態別の料理講座の参加者数（人）						病態別は糖尿病、高血圧症、脂質異常症としてテーマを絞って実施。例年人気のテーマである脂質異常症については、参加者数が落ち込んだが、一方で高血圧症については定員に達する申し込みがあった。次年度に向けて実施時期も踏まえて開催時期を検討していく必要がある。 また、調理実習を実施せず、食改によるテーマ別献立のデモンストレーション及び試食を3回実施。 実施回数　6回　参加人数（延）59人 （R4年度：6回65人）	A	引き続き、講座内容としては基本的な内容を中心にしながら、さらに深く知りたい人は個別相談で関わるなど、生活習慣病予防につなげる。また、様々な視点から生活習慣病を捉えてもらうため、新たなテーマや測定を取り入れる。 令和6年度：年6回開催予定。	国保年金課 健康づくり課
目的：生活習慣病の重症化を予防するための料理のポイントがわかる。 内容：病態別（糖尿病編、高血圧症編、脂質異常症編）料理講座の開催 （事業名）血管イキイキ食活におすすめ（病態別） （対象）一般	目標値	60	60	60	60	60	60				
	実績値	51	39	37	63	65	59				
c）HbA1c　5.6%以上への生活習慣改善講座	指　標	HbA1c5.6%以上が生活習慣病改善講座の参加率（%）						・対象者（HbA1c5.6%以上）：5,249人 講座参加者：154人（2.9%）のうち、HbA1c5.6%以上の人：130人 〔各講座のHbA1c5.6%以上の参加状況〕 血管イキイキメタボ編（実）24人中、18人 健康サポート講座（実）66人中、51人 脱メタボ（実）29人中、22人 血管イキイキ病態別（実）35人中、26人 ・HbA1c6.5以上の未受診者へは糖尿病重症化予防の電話支援を実施。	C	HbA1c5.6%以上の対象者の参加率を目標値に近づけることが課題である。 引き続き、健診結果を活かして、自分の健康状態を確認し、生活習慣を見直してもらうことを講座内で推進する。 また結果を基にHbA1c5.6%以上の対象者に対し、積極的に講座の周知を行い、生活習慣で改善できる内容を取り入れた講座を実施する。	国保年金課 健康づくり課
目的：自分自身の健康状態を知り、生活習慣を改善する人を増やする。 内容：HbA1c5.6%以上の者への生活習慣改善講座の開催 （血管イキイキメタボ編、健康サポート講座、脱メタボ（グッバイ内臓脂肪）、血管イキイキ病態別編等）	目標値	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	7.5				
	実績値	5.7	4.8	0.9	2.2	2.6	2.4				
d）日常生活動作を増やすための講座	指　標	アンケートで「実践する」割合（%）（実施済除く）						からだチェック＋食生活編、身体活動編、エクササイズ編の3種類のコースを用意し、実施した。 実施回数：15回、参加者：175人 （令和4年度：21回、240人） 【健康サポート講座】 ・実施回数9回、参加者数130人、「日常生活の中で実践する」回答率86.9% 【脱メタボ健康講座（グッバイ内臓脂肪からだづくり応援講座）】 ・実施回数6回、参加者数45人、「実践する」回答率89.0%	A	令和4年度は事業に従事する職員が4人いたところ、令和5年度より3人に減員したため、マンパワーの問題から実施回数が減少した。 今年度から健康サポート講座の外部講師をコナミスポーツに依頼し、参加者の有意義となる講座を開催する。	国保年金課 健康づくり課
目的：日常生活の動作が今より増える人を増やす。 内容：日常生活動作を増やすための講座の開催 特定健康診査受診者対象（健康サポート講座：4種類） 特定保健指導対象者（脱メタボ健康講座）	目標値	80	82	84	86	88	88				
	実績値	80.9	91.7	82.5	90.8	90.8	88				